

# 科学基礎論学会 2014年度 秋の研究例会プログラム

日 付：2014年11月1日(土)

会 場：東京大学駒場キャンパス

参加費：無料(非会員:1,000円)

A会場 (1号館1階 108教室)

B会場 (1号館1階 107教室)

## 【A会場】

10:00~12:00 「知覚の哲学の可能性と意義を認識論的側面から探る」

オーガナイザー 山田圭一(千葉大学)

- 1 源河亨 (慶應義塾大学文学研究科)  
「知覚可能性と認知的侵入可能性」
- 2 笠木雅史 (京都大学文学研究科)  
「認知的侵入可能性と基礎的知識」
- 3 戸田山和久(名古屋大学情報科学研究科)  
「知覚は一つのことなのか—認識論の自然化を徹底した上で知覚論とコラボすると、知覚というカテゴリーの自然さは雲散霧消して知覚の哲学も不可能になるかもしれんよ、ということについて—」

12:00~12:15 : 科学基礎論学会奨励賞発表及び授与式【A会場】

12:15~13:30 : 昼休み 企画委員会

## 【A会場】

13:30~15:30 「精神医学の基礎を問う」

オーガナイザー 榊原英輔(東京大学・大学院医学系研究科)

- 1 榊原英輔 (東京大学・大学院医学系研究科)  
「妄想の不合理性と症状らしさ」
- 2 石原孝二 (東京大学・大学院総合文化研究科)  
「「精神障害」の概念と「介入主義」」
- 3 信原幸弘 (東京大学・大学院総合文化研究科)  
「サイコパスと道徳／慣習の区別」

## 【A会場】

15:45~17:45 「自由意志と道徳的責任を帰属する心理」

オーガナイザー 太田紘史(東京大学)

- 1 太田紘史 (東京大学)  
「自由意志の実験哲学の展望」
- 2 渡辺匠・唐沢かおり (東京大学)  
「自由意志信念の測定の問題」
- 3 松本龍児・唐沢かおり (東京大学)  
「自由意志信念の社会的機能」
- 4 山口尚 (京都大学)  
「自由意志信念の科学的研究の意義」

## 【B会場】

10:00~12:00 「「人の造りしもの」の科学と哲学—社会科学・工学の哲学の観点から—」

オーガナイザー 伊勢田哲治(京都大学)・出口弘(東京工業大学)

- 1 出口弘 (東京工業大学)  
「人工物の科学方法論—その範囲と認識論的基盤—」
- 2 徳安彰 (法政大学)  
「人工物の科学方法論とメディア論—マクルーハン、ルーマン、ラトウラー—」
- 3 斉藤了文 (関西大学)  
「人工物が問題になる場合」

## 【B会場】

13:30~15:30 「状況意味論からチャンネル理論へ」

オーガナイザー 菊池誠(神戸大学)

- 1 山田友幸 (北海道大学)  
「チャンネル理論から見た言語行為の動的論理」
- 2 岡本賢吾 (首都大学東京)  
「不飽和命題・様相／時間性・情報射」
- 3 菊池誠 (神戸大学)  
「状況理論としてのチャンネル理論」

## 【B会場】

15:45~17:45 「〈真にするもの〉の形而上学とトロープ存在論—秋葉剛史『真理から存在へ』を読む—」

オーガナイザー 鈴木生郎(慶應義塾大学)

- 1 秋葉剛史 (成城大学)  
「『真理から存在へ』の概要と課題」
- 2 北村直彰 (慶應義塾大学)  
「TM原理の正当化と位置づけ(仮)」
- 3 金杉武司 (國學院大學)  
「心的因果の説明としてトロープ説は事態説よりも優れているのか(仮)」

## 科学基礎論学会

〒108-0023 東京都港区芝浦2-14-13 MCKビル2F 笹氣出版印刷株式会社内

TEL : 03-3455-4439 URL : <http://phsc.jp/> E-mail : [kisoron@sasappa.co.jp](mailto:kisoron@sasappa.co.jp)